

日本キリスト教会 大阪北教会

2017年3月12日(日) 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ヨハネによる福音書17章6節～10節

17:06 世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。 17:07 わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。 17:08 なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。 17:09 彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです。 17:10 わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。

説教 『ただ神様の栄光が現れますように』

◆今日の箇所を含む17章全体に「イエスの祈り」という小見出しが付いております。

この小見出しは聖書本文ではありませんが、こう表現して良いものだと思います。祈りは、その人の内面、内心の神様への吐露であります。それこそ、人を騙し、自分を騙し、そして自分を騙していることも気が付かないとしても、神様を騙すことはできません。ですから、祈りにおいて、その人の真実の姿が現れると言ってよいでしょう。

◆もう一度6節からお読みします。「世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。』『御名』とは神様のお名前のことですが、「名は体を表す」と言いますように、名はその本質・実体を表わします。聖書における神様のお名前は、ヘブライ語で「ヤハウエ」であります。その意味は「在らしめる者」、つまり「無から有を生じせしめる御方」との意味であり、創造者の事であります。正に、イエス様はその存在、言動において「ヤハウエ」を啓示された御子であります。その次に「彼らは、御言葉を守りました」とあります。確かに弟子たちは、これまでイエス様の御言葉に従ってまいりました。しかし、今ここに至って、弟子たちは、イエス様の御言葉の真意を理解できなくなっております。16章32節にこうあります。「だが、あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に来ている。しかし、わたしはひと

りではない。父が、共にいてくださるからだ。」弟子たちの気持ちは、どこまでもイエス様に従って行くというのがその偽らざる気持ちであります。それが崩れて行きます。

◆7節以下に「07 わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。08 なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです」とあります。また10節でも、「わたしは彼らによって栄光を受けました」と祈っておられますが、この後、18章に行きますと、小見出しに「裏切られ、逮捕される」とあります。ですから、「彼らは、御言葉を守りました。」「彼らは、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。」「わたしは彼らによって栄光を受けました。」と言われることは、実際とは食い違うわけです。しかし、イエス様は彼らの「裏切り」を見越した上で、弟子たちの復活・再生を信じておられるのであります。何故なら、一時、弟子たちの態度がどうであれ、主イエス様は、父なる神様の御独り子として、父なる神様から託された任務を成し遂げ、その不朽の御愛、アガペーを生き抜かれ、それを啓示されることが任務だからです。

◆主イエス様は、かつてこう言われました。マルコ福音書の11章24節です。「祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる」と。主イエス様は、御自身の歩みによって、ここで述べておられることを必ず実現される覚悟なのです。これまで愛し抜いて来られた弟子たちの今後にどのような事があるにもせよ、必ず、彼らが信仰に導かれることを信じて疑わないのです。なぜなら、この祈りの確信は、イエス様御自身が、何があっても弟子たちを見捨てないことを、父なる神様に誓っておられるのですし、弟子たちをお守りくださいとの祈りでもあるからです。私達も、どうしようもない窮地に陥って、必死に祈ります。時に、同祈ってよいかさえ分からなくなります。しかし、神様は、わたしたちの言葉にならない必死の祈り、叫びを聞き分けて、その祈り、願いを最良の形で叶えて下さいます。それが、わたしたちの実体験ではないでしょうか。

◆昨日は、東日本大震災6周年の記念日でした。先週もこれに因んで、ヨブの苦難について触れました。彼が、全財産を奪われ、10人の子供を一挙に失い、そして自らも、頭の前から足の裏まで酷い皮膚病に侵されながらも、神様を恨まず、呪わなかったのか。そればかりか、その苦難を共に経験した妻が、夫の苦しみを見かねて、「神を呪って死ぬ方がましでしょう」と言いますが、ヨブは、「わたしたちは、神様から幸福をいただいたのだから、

不幸もいただくのではないかと応えて、その唇をもって罪を犯す事はなかったのです。私は想像します。恐らくヨブは、パウロ的経験をしたのだと思います。彼は神様の憐れみによって、かつて地獄から救われる経験をしたのだと思います。そのことによって、彼の神様への信頼は、不動のものとなり、絶対と言ってもよい信頼を与えられたのではないのでしょうか。パウロもあのロマ書8章の末尾で、こう申しておりますね。「35 だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。36 『わたしたちは、あなたのために一日中死にさらされ、屠られる羊のように見られている』と書いてあるとおりです。37 しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。38 わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、39 高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」と。信仰は、人間の確信の不動さに依存するのではなく、神様、イエス様の愛と真実の不動さに依存して、揺るがないのです。

◆今日の週報の〈諸報告〉に、受難節のことを書きました。〈諸報告〉(6)です。「今年の受難節(レント)は、3月1日から4月15日までの日曜日を除く40日間です。」ある意味では、わたしたちの人生は、その全体が受難節だと言ってもよいでしょう。〈40日〉は、主イエス様が伝道に立たれる前に、荒野で40日40夜、断食をされて、サタンの誘惑を凌がれた事に因んでいます。教派によっては、文字通り、断食を行う教会もありますが、この間の6回の日曜日は、除くのです。何故なら、週の初めの日曜日は、主イエス様の御復活の記念日だからです。週日の6日間が苦しい日々であるにもせよ、7日目の週の初めの復活日に、私達も主の恵みの御言葉によって息を吹き返すのです。今年は4月16日が復活節です。その前の6日間が受難週です。受難節・受難週には主の十字架上の七言に必ず触れます。ルカ福音書に三言、ヨハネ福音書に三言、マタイとマルコは同じ言葉で一言ですが、マタイとマルコの一言は、詩編22篇の冒頭の句です。「わたしの神よ、わたしの神よ、なぜわたしをお見捨てになるのか。」主はこう叫ばれたのです。しかし、その後こう続きます。「なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず、呻きも言葉も聞いてくださらないのか。わたしの神よ、昼は、呼び求めても答えてくださらない。夜も、黙ることをお許しにならない。だがあなたは、聖所にいまし、イスラエルの賛美を受ける方。わたしたちの先祖は

あなたに依り頼み、依り頼んで、救われて来た。助けを求めてあなたに叫び、救い出され、あなたに依り頼んで、裏切られたことはない」と。この 22 編は 32 節あって長いのですが、是非全体をお読み下さい。今日の箇所のお祈り予型と言ってもよい内容です。

◆今日の御言葉に戻ります。10 節で、主はこう祈られます。「わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。」これは、主イエス様の揺るぎない確信です。この後、弟子達がどのような態度を取ろうが、躓こうが、主イエス・キリストは彼らを愛し抜かれ、彼らを復活、再生させられます。そして、弟子たちは、主イエス様の比類なき御栄光を証しするようになります。この 17 章の主イエス様のお祈りは、正に、試練におけるお祈りですね。先週、読みました 17 章 1～5 節を、もう一度、読みましょう。「17:01 イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。17:02 あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができるのです。17:03 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。17:04 わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。17:05 父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。」この主ご自身のお祈りは聞き届けられますね。そして、この主イエス様の御執り成しの故に、神様の御憐れみの故に、わたしたちの祈り、願いも、言葉にならない呻き、叫びも、父なる神様は必ず、聞き届けて下さいます。私たちも、神様に依り頼み、依り頼んで、救われて来ました。助けを求めて神様に叫び、救い出され、神様に依り頼んで、裏切られたことはありません。この比類なき信仰の幸いを再確認して、歩もうではありませんか。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。あなたの変ることのない御愛、御憐れみの故に、今日の日まで、守られ、祝されて歩んで来れましたことを覚え、心から感謝申し上げます。主イエス様の御業が、あなたの御愛と憐れみに満ちておられるように、主イエス様に合わされております、わたしたちの生活も、そのようであり、あなたの御栄が現れ出るものであらしめて下さい。この祈り、主イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。